

INFORMATION

『再生紙』について

再生紙とは、原料に古紙を配合して製造した紙のことをいいます。

再生紙には、原料となる古紙は異なりますが、印刷用紙、新聞紙、段ボール、ボール紙（厚紙）、コピー用紙、トイレットペーパーなどがあります。

すべての古紙を回収し、再生パルプにして紙を再生出来れば、莫大な紙ごみの発生が抑えられる事や、森林資源の節約・保護だけでなく、水資源やエネルギーの節約にもなります。

この事から古紙の回収と紙の再生は国を挙げて進められ、今のリサイクルシステムが出来上がりました。

しかし近年、中国の経済発展により、日本から良質な古紙が輸出される様になり、国内の古紙流通量が大幅に減少してきました。

また、新聞発行部数や出版物の減少により、古紙発生量も減少しています。

これらの要因により、国内製紙メーカーは、再生紙の主原料となる良質な古紙の入手が困難となっており、その結果、日本国内で製紙メーカーが利用出来る上質古紙が、国内生産量に対し、必要な量に満たないという現象が起きています。

この状況は、2019年当初から顕著になり再生印刷用紙の生産中止を発表している国内製紙メーカーもあります。

貴重な資源ですので、良質古紙を国外に出さないようにしてもらわないと・・・。

再生印刷用紙の供給不足により、グリーン購入法に基づき国等及び地方公共団体が発注する印刷物等の入札案件に大きな問題が発生する懸念があります。

段ボールやパッケージ用の厚紙も古紙を利用していますが、今後、古紙の安定調達に更なる問題が生じれば、梱包資材の主流である段ボール価格の値上げによりネット通販業界にも影響を及ぼす事になってきます。

皆さんも単なる「紙ごみ」ではなく、貴重な資源としてリサイクルに出すだけでなく、その行き先まで興味を持って頂ければ、紙というエコ素材を取り巻く環境がご理解頂けるものと思います。